

今年度から始まった 帯状疱疹ワクチン接種 について

順仁堂遊佐病院 院長 佐藤 いづみ



今年度から帯状疱疹ワクチン接種に対し、年度内に65歳になられる方から5歳ごとに自治体から助成金が出るようになりました。対象や助成金額等の詳細は、すでに遊佐町からもお知らせが配布されていますが、「私、それ見たこと無い」という方のために、概要をお知らせします。

帯状疱疹ワクチンは以下の2種類です。子どもたちが受けるのと同じ弱毒水痘生ワクチン（効果の持続は5年程度）と、シングリックス®という名の不活化ワクチン（効果は10年程度）の2種類で、どちらも公費助成の対象です。弱毒水痘生ワクチンは1回接種の皮下注射、シングリックス®は2か月開けての2回接種の筋肉内注射（2回目の接種日は1回目の接種日と同じ数字の日の翌日以降）となり、接種間隔が2か月を超えた場合であっても、6か月までに2回目の接種をしていただければ問題ありません。

帯状疱疹って何？

と言う方のために

症状経過は、ざっとこんな具合です。



あるとき急に脇腹や背中がむず痒くなったと思ったら翌日にはビリビリと痛み出し、数日の間に痛痒さを増しながらポツポツと赤い発疹や小さな水ぶくれの集まりが手のひらほどの範囲に広がり、その頃には痛みで夜も眠れなくなる、これが帯状疱疹であり、ウイルス感染症の一種です。このウイルスは水ぼうそうのウイルスと同じもので、昔は子どもの頃に誰でも罹りましたが、弱毒水痘生ワクチンができたおかげで罹らずに大人になった人も最近は多くなり、またウイルスは、感染した人（宿主と言います）の神経に潜りこみ、じっとして宿主の体力が衰えるのを何十年も待ち、暑さや寒さ、過労や風邪、精神的ストレスや癌など別な病気で宿主の免疫力が落ちると悪さをします。一説にはこのウイルスは、弱った宿主を見捨てて体外脱出を企てるのだとも言われており、その意味ではゲンキンな奴です。ですから帯状疱疹は、あなたに「免疫低下が起きていますよ」とウイルスが親切に教えて

くれているとも言えるわけです。それゆえこのウイルスは、免疫力低下の原因を調べ、睡眠・休息・食事を十分に確保できるような暮らし方へと人間を導く救世主のような存在とも言えなくも無いのですが、問題は、その疼くような痛み、フツと息を吹きかけられても激痛が走り夜も寝られないほどの痛みが、何日も続き、見かけ上は治ったあとにも、後遺症となり後々まで痛みが残ってしまった人が結構いるという、その質（たち）の悪さにあります。

副反応のことや効果など

水ぼうそう（水痘）も帯状疱疹も、ほかのワクチン接種で得られる免疫と同様、一生モノ（終生免疫）にはなりません。ワクチン接種には副反応が付き物ですが、2種類のワクチンで起きる副反応は、季節性インフルエンザやヒトパピローマウイルス、コロナ等のワクチンの副反応と大差ありません。また、気になる接種効果ですが、ワクチン接種によって「ただいま罹患中の帯状疱疹」や「今ある帯状疱疹後神経痛」が良くなるわけではありません。ワクチンはあくまでも「再発防止」や「（身体）別なところに新しい帯状疱疹が出現」するのを予防するためのものであり、もし発症しても、接種しておくことで重症化せずに済むことが期待されています。ちなみに後遺症性神経痛に悩まされる前、まだ発症間もない（治りきる前）頃に適切な神経ブロック治療を受けることにより、痛みの回復が早くなったり後遺症の発症率が下がったりします。特に痛みが苦手な方には、ペインクリニック専門医による神経ブロックの併用もお勧めです。と、いろいろ書いてきましたが、いずれにしても、**予防接種は体調の良い時に受けることが肝要です。**

地域包括ケア病床について

急性期病院での治療後、すぐに自宅や施設への退院に不安がある方や、在宅療養中に病状が不安定になった方、医療や介護が必要になっても「住み慣れた町や家で暮らし続けたい」「早く元気になって帰りたい」という方の支援を目的として、令和7年3月より、療養病床の一部を地域包括ケア病床に転換しました。

入院期間は最長 60 日

在宅への退院を目的とした病床のため、保険診療上 60 日までの入院と日数が定められています。

こんな患者さまにご利用いただいています

- 急性期の治療後、退院を目的としたリハビリが必要
- 自宅や介護施設などで療養中に肺炎、発熱、脱水、骨折、ケガ（重症でない方）で入院治療が必要となった
- 日常生活動作向上のためのリハビリが必要
- 在宅での生活に向けて、療養準備が必要
- 介護者の負担軽減を目的とした短期間の入院



ご相談、お問合せは地域連携室までお願いいたします。

日用品セット ご利用いただいています



令和7年6月1日より、入院患者さま、ショートステイ利用者さまを対象に、専門業者委託による、日用品セットレンタルを導入いたしました。「入院中に用意するものが少なくなった」「衛生的なタオルの利用ができ安心」などのお声をいただいております。ご不明な点は病棟スタッフまたは受付までお問合せください。



看護師・介護員

募集中!!

遊佐病院で一緒にお仕事しませんか。
 詳しくはお電話またはメールにてお問合せください
 ☎ 0234-72-2522 ✉ info@yuza-hospital.jp



ドイツ・ハノーファーと ノルウェー・オスロの旅

副院長、麻酔・疼痛緩和科
佐藤 裕

9月4日に庄内空港より羽田に飛び、そのまま21:00に同じ羽田第二ターミナル3階にできた国際線ターミナルからANAとルフトハンザ(LH)・ドイツ航空との共同運航便でドイツのフランクフルト国際空港まで、14時間かけて飛びました。ウクライナ戦争の影響で、ロシアの上空を飛べなくなったので、羽田から東に飛び、アメリカ・アラスカ州のアンカレジ上空を飛び、グリーンランド上空を飛び、イギリスとデンマークの間の海の上を飛んで、現地時間で5日の朝5時30分ごろにフランクフルトに着きました。今回はさらに10時過ぎのLH便で同じドイツのハノーファーに飛び、5日から9日まで、ハノーファー医科大学麻酔科の名誉教授、ベルンハルト・パニング先生と奥様モニカさん宅にご厄介になりました。(同先生は2010年に遊佐病院で講演をなさったこともあります。)

同先生は医学の歴史にご造詣が深く、オーストリア出身の医師、アルブレヒト・フォン・ローレツ(1846-1884)の日本での足跡、つまり1876(明治9)年から4年間、愛知県公立病院兼医学校(現国立名古屋大学医学部)、ついで1880(明治13)年から2年間、山形県立済生館病院兼医学校(現山形市立済生館病院)で教鞭をとり、帰国後2年足らずで亡くなったため、本国でも殆ど知られない方です。今でも名古屋市と山形市では医療界で「西洋医学の父」としてあがめられている人物です。名古屋にはローレツの依頼で浮世絵師柴田芳洲が描いたとされる「明治初年愛知県公立病院外科手術の図」と呼ばれる錦絵が、名古屋大学付属図書館医学部分館資料室に残されています。明治10年代の外科手術を描いた絵は国内に他になく、貴重なものです。

ローレツは当時、日本では漢字で「老烈」として知られていました。錦絵でもローレツは禿げ頭に眼鏡を掛けた40-50歳くらいの人物として描かれていますが、実際はまだ30歳後半の美青年でした。その外にもこの絵にはあり得ないことが多くあり、その「謎」をパニング先生は長年検討していらっしゃるのです。

そのため日本の文献とオーストリアの文献の双方を検証する必要があり、私もそのお手伝いをして頻繁にメールのやり取りをしています。オスロの学会前にお訪ねした重要な理由です。

今一つは、大作曲家ブラームスと長年親交のあった

←オスロにて
玲さん(裕先生の奥さま)の誕生
パーティーのひとコマ
2025-9-12, Oslo-Arakataka



ウィーン大学の外科学教授ビルロートが、ドイツ・ゲッティンゲン大学医学部の学生時代に毎夏過ごした従兄の家がハノーファー近郊にあり、現在は孫夫婦が住んでおられます。そのご家族とパニング先生とが親交があり、昨年に続きお訪ねしました。

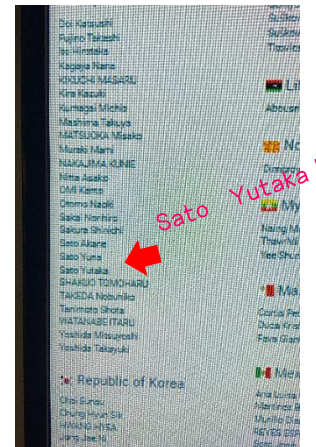
ブラームスとビルロートには30年以上にわたる往復書簡があり、日本の外科医が英語版から翻訳して出版されていますが、もともとはドイツ語版なので、直接翻訳を試みるため、このご一家(シュタインフェルダーさんと仰います)に残る資料なども拝見する目的がありました。

9日に、いよいよハノーファーを立ち、デンマークのコペンハーゲン経由でノルウェーのオスロに飛びました。第52回欧州区域麻酔学会学術集会(ESRA congress 2025 Oslo)が正式名ですが、単に神経ブロックの学会ではなく、脊椎麻酔や硬膜外麻酔を含み、最近ではいわゆるPOCUS(Point of Care Ultrasound)も大事な習得項目となっていて、医師だけでなく、看護師、臨床工学技士の必須項目となりつつあり、ワークショップでも盛況でした。これは世界的に在宅医療が叫ばれ、ベッドサイドでの検査を看護師などが行い、撮った画像を伝送して医師などに診療指針をもらう事例が増えているのです。もはや超音波診断は医師の専売特許ではなく、広く医療者の必須項目になっているのです。日本くらいCTやMRIが普及している国は他にありません。患者さんもそれに慣れて「CTも撮ってくれない」という不平をよく聞きます。しかし、欧米ではCTやMRIは大きな病院にしかありません。

また、超音波診断も放射線科医の専門事項でした。しかし近年ではPOCUSを一般の医師だけでなく、看護師や臨床工学技士が行うようになっていっています。

世界の医療は変わってきています。それに遅れないよう我々も勉強する必要があります。

それを強く感じたオスロでした。



↑ESRA 2025 Oslo-
日本人参加者名簿



ハイタッチや握手、
「元気だね」「ありがとう」
のやりとりにあたたく
なりました。→



↑力強い声と音、菖蒲の香りが広がりました

元気の
おまけに
菖蒲たたき!!

「6月6日のしよぶたたき!」
令和7年6月6日、認定こども園杉の子幼稚園 年長つばめ組のみなさんが、遊佐病院に邪気払いに来てくれました。菖蒲(しょうぶ)たたきは、菖蒲の葉や茎を束ねたたき棒で地面をたたき、その音で邪気を払い、無病息災や子どもたちがすくすく育つことを祈る地域行事です。毎年旧暦の端午の節句に行われるこの行事。地域のみなさんにも元気をあおすわけでした。

元気な声と力強い地面をたたき、音が響き渡り、病院にいらした方々や、病院職員たちにはこにこ笑顔に。すてきな元気のプレゼントをもらいました。

たくさん「ありがとう」が聞こえ、中には涙ぐみ方も。杉の子幼稚園のみなさん、ありがとうございました。

元気の
プレゼント